184. 乳腺の超音波像（乳腺症について）

東京慈恵会医科大学附属病院放射線科 ○村上 卓 松浦 重雄 堀 洋児
 (Takashi Murakami) (Shigeo Matsuura) (Yoji Hori)
 " 第三病院放射線科 松原 馨 渡辺 善伸 石井 元洋
 (Kaoru Matsubara) (Yoshinobu Watanabe) (Motohiro Ishii)

〔目的〕 乳腺の超音波検査は水浸法による機械式走査方式で実施されていたが、最近電子スキャンに音響カプラを組合わせた電子走査方式でも実施されるようになってきた。今回、特に乳腺症について2つの方式で比較、検討し多少の知見を得たので報告する。

〔方法〕 水浸法

装置・・・東芝 SAC-12A

プローブ・・・周波数7.5MHz 25mmφ（東レ） 機械式走査
 water bag を乳腺にのせ、主に横断走査でおこなう。

音響カプラ法

装置・・・東芝 SAL-77A 及び SSA-100A

プローブ・・・周波数7.5MHz 電子走査方式

音響カプラ（主に厚さ15mmのオイルゼリー）を乳腺にのせ多方向より走査する

〔結果〕 ○音響カプラ法は水浸法に比べ死角なく短時間に広範囲に走査できる。

○音響カプラ法はreal time に多方向より観察できるので特に乳腺症では水浸法より画像診断の精度が向上した（特に小嚢胞の描出や、線維組織の増生や脂肪組織が乳腺組織の中に入りこんでいる状態が容易に描出できるようになった）

○乳腺症を3つのタイプに分けることが出来た。

1) 嚢胞

2) 多彩像（網目様、乳腺の乱れやこれらと嚢胞の混在するもの）

3) 腫瘤型

〔考察〕 音響カプラ法の画質は水浸法に比べると十分といえず、今後高周波数のプローブの開発や装置の改良の必要があるとおもわれるが多くの利点（容易でreal time に多方向より走査）があり乳腺超音波検査に今後さらに普及するものと思われる。

音響カプラ法の問題点として乳腺内にartifact として多重反射エコーが生じる事があるので乳房の大きさに対して多重反射エコーが出現しないように音響カプラの厚さを考慮する必要があり厚みの違う音響カプラを数種類用意すべきである。